

授業科目名	アフリカの歴史と社会	単位数	2
担当教員名	朝田 郁	担当形態	単独
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>アフリカ社会の歴史と現在を学ぶことで、そこで暮らす人々と私たちが、共に地続きの世界を生活していることを理解し、学位授与方針である「共生社会の創造に貢献する姿勢」を身に付けることを目指す。また、現代的な共通課題について知ることで、「自律的な課題探究能力」の習得も目標とする。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) アフリカの歴史に通時的に触れるとともに、現代的な共通課題についても理解する。  (2) アフリカと他の地域を結んでおこなわれてきた、地域間交流のダイナミクスを学ぶ。  (3) 植民地的歴史観を相対化する一方で、アフリカを弱者に描く姿勢からも距離を置く。  (4) アフリカの人々が、私たちと同時代かつ地続きの世界を生活していることを実感する。  (5) 報道で耳にするアフリカの話題について、背景を多角的にとらえる力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>みなさんの持つアフリカのイメージは、どのようなものでしょうか。アンケートを取ると、未開社会、貧困、野生動物といった言葉が頻出します。日本のテレビや新聞などで、アフリカ社会が扱われることは少なく、ニュースでも全報道量の2%に過ぎないという報告があります。なので、アフリカの人々が歩んできた歴史や、また現在暮らしている社会について、思い浮かべるのは難しいかもしれません。</p> <p>この授業では、新しい視点で編まれた「アフリカ史」の教科書を読み進めながら、文明の黎明期から現代までの流れを学修するとともに、現代アフリカ社会を形作る、多様性や共通課題にも注目します。またスクーリングでは、アフリカ社会に暮らす人々が私たちと同時代を生活していること、これらの地域が私たちの社会と地続きの世界であるということを、身近な事例を読み解きながら学びます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：アフリカの自然と生態環境 —アフリカ史の舞台・文明の曙  第2回：流域社会の形成（1）—コンゴ川世界とザンベジ・リンポポ川世界  第3回：流域社会の形成（2）—ニジェール川世界とナイル川世界  第4回：人々の移動とネットワーク（1）—サハラ交渉史  第5回：人々の移動とネットワーク（2）—インド洋交渉史  第6回：大航海時代とアフリカ —大西洋交渉史  第7回：植民地支配 —ヨーロッパ来襲・支配の方程式  第8回：抵抗するアフリカ —抵抗の主体とパン・アフリカ主義・ナショナリズム  第9回：アフリカ諸国の独立 —独立の光と影  第10回：アフリカ社会の苦悩 —20世紀末のアフリカ  第11回：成長するアフリカ社会 —21世紀のアフリカと未来  第12回：聖なるものと人々の暮らし —アフリカの豊かな精神文化</p>			

第13回：アフリカン・アートとメディア —カルチャーとコミュニケーション

第14回：アフリカ社会が抱える課題 —現代アフリカ経済と紛争

第15回：世界・アフリカ・日本 —地球社会の一員として

定期試験

スクーリングでの学修内容

教科書で学修したアフリカの歴史をふまえて、現在のアフリカ社会が抱えている共通課題や、社会が内包する多様性について学ぶ。講義では、イスラームや在来信仰などアフリカ社会に息づく豊かな精神文化（第12回）、ポピュラー・カルチャーとコミュニケーションを軸にしたメディア状況（第13回）、20世紀末～現在のアフリカ経済の変動と紛争問題の背景（第14回）、国際社会におけるアフリカ諸国のプレゼンスと日本との関係（第15回）をテーマとし、身近な事例を通して理解を深める。

テキスト

宮本正興・松田素二(編)『改訂新版 新書アフリカ史』講談社 2018年

参考書・参考資料等

- (1) 松田素二(編)『アフリカ社会を学ぶ人のために』世界思想社 2014年
- (2) 北川勝彦・高橋基樹(編著)『現代アフリカ経済論』ミネルヴァ書房 2014年
- (3) 松田素二・津田みわ(編著)『ケニアを知るための55章』明石書店 2012年など、  
明石書店から刊行されている『～を知るための…章』(エリア・スタディーズ)

学生に対する評価

スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(50%)を総合して評価する。